



友だちに手が出る



まず、その場では…

- 1 できるだけすばやく、おだやかに行為をやめさせ、本人が落ち着ける場所に連れて行く
- 2 たたかれた子やまわりの子どもたちには、安心できるよう声をかける

やってみよう！

たたく以外の意思表示を教える

子どもが、何をしたかったのか、何がいやだったのかを考え、たたく代わりに具体的にどうすればよいかということをお教えあげましょう。できることから少しずつ始め、うまくいったときは褒め、成功体験を増やすことが大切です。

まわりの子どもに説明する

まわりの子どもの訴えを聞き、気持ちを受け止めます。そのうえで、わざとしているわけでも、悪気があるわけでもないことを説明し、「手をつなぐときはそっと」など、付き合い方のコツを教えましょう。

たたくときの状況を観察し、事前に止める

子どもが手をだしそうな気配がしたら、直前に止められるようにしましょう。友だちと遊ぶときは、できるだけ大人がつき、ほかの子どもたちがケガをしないような配慮をしましょう。

環境から変えていく

特定の子をたたく場合は、なるべくその子と一緒に活動させない、並ぶときはその子が視界にはいらないようにするなど、トラブルを避ける環境を整えましょう。

NG!

たたかれた痛みをわからせようとする

相手の気持ちを想像することが苦手な場合、自分が痛いことと、相手が痛いということを結び付けられません。また、「お父さん（お母さん、先生 など）が叩いた」→「お父さん（お母さん、先生 など）がしたことはしてもいいこと」という学習をするかもしれません。

たたいた相手にただ謝らせる

「ごめん」という言葉を知っていても、実際に謝るといことはどういうことなのか分かっていない場合、あとで「ごめん」と言えば叩いてもよいと思ってしまう。謝るといいう行為を教えるときは、ただ「ごめん」と言わせているだけにならないように気をつけましょう。